

事務局便り

令和4年12月12日

*「春期研修会」オンライン型開催のご案内



日程：令和5年3月28日（火）10：00～15：45

オンライン：Zoomによる

テーマ：現代生活の課題から授業のテーマをつかむー家庭科の授業デザイン講座ー

講師：横浜国立大学 教育学部 堀内かおる先生

春期研修会をハイフレックス型開催できるように準備を進めてまいりましたが、研修内容の関係上、会場のWi-Fi環境を考え、オンラインのみでの開催に変更いたしました。ご理解の程よろしくお願ひ致します。

堀内先生には、令和2年度機関誌3号に「オンラインでつながる家庭科教師のLearning Community～コロナに負けない家庭科教育を考える～」をご執筆いただきました。春期研修会では、午前中ご講演をいただき、午後からのグループワークのご指導も頂きます。堀内先生は、日本家庭科教育学会誌第61巻第1号（2018.5）において「学習指導要領という大綱的基準は前提としつつも、目の前の子どもたちの実態や現代的な生活課題に根差したトピックをカリキュラムの中に位置づけて、これまでの学習や他教科の学びと結びつけてダイナミックに授業を作る構想力が、家庭科教員には特に必要だ」と述べています。現代的な生活課題をカリキュラムの中に位置づけ、教師自身も生徒と一緒に学びながら授業創りをするための研修ができたらと考えています。本協会が堀内先生に依頼した意図をご理解いただけたらと思います。

◎堀内かおる先生のご著書紹介

- | | | | |
|----------------------------------|--|--------|---------|
| 「生活をデザインする家庭科教育」 | 堀内かおる、土屋善和、岡部雅子、土屋みさと、遠藤大輝、三戸夏子、佐桑あずさ、神山久美 | 世界思想社 | 2020年3月 |
| 「人生の答えは家庭科に聞け！」 | 堀内かおる・南野忠晴 | 岩波書店 | 2016年4月 |
| 「家庭科教育を学ぶ人のために」 | 堀内かおる | 世界思想社 | 2013年6月 |
| 「家庭科再発見ー気づきから学びがはじまる」 | 編著)堀内かおる 共著)望月一枝他 | 開隆堂出版社 | 2006年8月 |
| 「教科と教師のジェンダー文化ー家庭科を学ぶ・教える女と男の現在」 | 堀内かおる | ドメス出版 | 2001年7月 |

◎申し込み方法などは、別紙案内チラシをご覧ください。

*ご寄付のお願いーハイフレックス型開催のためにー

コロナ禍により、研修会は、オンライン又はハイフレックス型開催が当たり前になりました。遠くて参加できなかった研修会にも、交通費をかけずに参加できますし、急に体調が悪くなくても、会場参加からオンライン参加に変更しての参加も可能など、その良さが実感されています。

本協会では、可能な限りハイフレックス型開催を継続する予定です。しかし、ハイフレックス型開催のための機器類は、役員・常任理事の私的な機器類を使用している状況で、性能も決して良いものではありません。少しずつ充実していきたいと考えています。そのため会費収入のみで活動している当協会の財政事情ご理解いただき、皆様からのご寄付を申し上げる次第です。別紙「寄付趣意書」をご覧ください、ご寄付をお願い申し上げます。

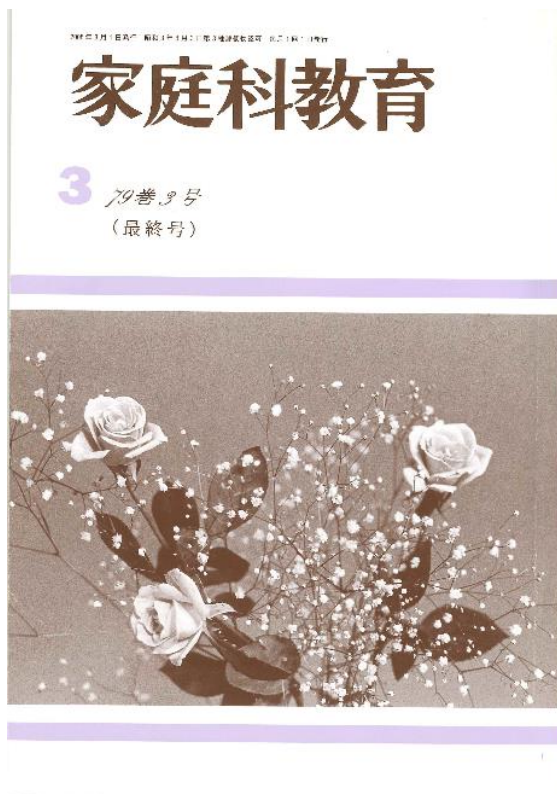
*シリーズ ~全国家庭科教育協会の歴史~ (2) 創立の経緯 ①家政教育社との関係

前回のシリーズ記事では、第1回総会(当時は全国大会と呼称)時に、「職業・技術科講習会」が行われたことを紹介致しました。その宣伝ページには、主催は「全国家庭科教育協会 文部省(申請中)」、後援が「日本家政学会 家政教育社」とされています。今回は、家政教育社との関係について紹介します。

家政教育社は、この宣伝ページ及びその状況報告が掲載された雑誌『家庭科教育』を発行していた会社です。1950年3月の段階では、残念ながらZKKの機関誌「家庭科」は発行されていませんでした。機関誌「家庭科」アーカイブ(DVD)にZKK結成の文書(1949年12月26日)が掲載されていますが、その内容とはほぼ同じ文書が、雑誌『家庭科教育』24巻2号(1950年2月発行)に掲載されていました。1949年8月から雑誌『家庭科教育』の編集主幹を務め始めた重松伊八郎は、1950年4月のZKK創立当時の理事長です。編集主幹の立場を活用して、ZKKの機関誌「家庭科」が創刊(1951年1月)されるまでの約11ヶ月、雑誌『家庭科教育』において、ZKKの広報を「消息」「便り」として掲載していました。ZKKの創立は、家政教育社発行の雑誌『家庭科教育』の存在抜きではなし得なかったと考えられます。しかし、雑誌『家庭科教育』は2005年3月に休刊しました。最終号(79巻3号)の表紙を感謝の意味で掲載します。

今回は、日本家政学会との関係について紹介する予定です。

浅井直美(2022) 全国家庭科教育協会(ZKK)の設立の経緯とその目的 日本家庭科教育学会誌 65(3):132-143



*編集後記 機関誌4号 「脱プラスチックの未来」

機関誌4号の編集会議で、「プラスチック新法が今年の4月から施行されたんだけど、、、」との発言から、このテーマが決まりました。早速その制定に関わった「環境省」には、その制定過程や内容についてご執筆いただきました。そして、プラスチック問題といえば、マイクロプラスチック!海に広がるプラスチックの破片は、今後どうなるのでしょうか?九州大学の磯辺篤彦先生には、海洋プラスチックについて、最新の研究を元にご執筆いただきました。まだまだわかっていないことばかりで、便利なプラスチックとどう付き合っていけばいいのでしょうか。さらに、食堂運営を事業としている(株)勤労食の濱崎佳寿子様には、食べられるスプーンPACOON開発と脱プラスチックをつなげてご執筆いただきました。この食べられるスプーンPACOONは、元々は野菜摂取のための企画であったとか?!それにしても、プラスチックは便利なもの、プラスチックフリーな生活をしている人の書籍も販売されているようですが、プラスチックをどう取り入れて生活するのがいいのか?子どもたちと話し合ってみたくなりました。

来年3月発行の機関誌5号のテーマは、「18歳成年を迎えて」です。こちらも2022年4月に施行されました。最初は、「18歳成年の課題」と18歳成年になってしまったことをネガティブに捉えていましたが、18歳で成年になるということを楽しむような家庭科の学習を考えていきたいという話になり、「18歳成年を迎えて」と変更しました。消費者庁米山眞梨子様、弁護士遠藤郁哉様、そして家庭科教育における「18歳成年」について荒井紀子様にご依頼中です。

◎機関誌をお読みいただき、授業の参考にしていただければ幸いです。